

## 「ヨハネ、ヤコブ兄弟の高慢を叱る」

2023年05月26日

ヨハネが答えて言った。「先生、あなたのお名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちと一緒に従って来ないので、やめさせました。」イエスは言われた。

「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」  
(ルカ9：49～50)

しかし、サマリア人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムに向かって進んでおられたからである。弟子のヤコブとヨハネはこれを見て言った。「主よ、お望みなら、天から火を下し、彼らを焼き滅ぼすように言いませんか。」イエスは振り向いて、二人をお叱りになった。そして、一行は別の村に行った。(ルカ9：53～56)

弟子のヨハネは、主イエスから癒しと悪霊を追放する権能をいただき「神の国」の宣教に遣わされ、大きな成果を上げて、主イエスの下に戻って来た。そして、宣教の時に経験した出来事を得々と報告した。「先生、あなたのお名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちと一緒に従って来ないので、やめさせました。」ヨハネは、主イエスの名を使って悪霊を追い出す者を見つけたので、我々のように、主イエスに従って一緒に宣教しようと勧めた。ところが、その者は主イエスに従うことを拒んだ。そこで、ヨハネは、従わないならば、主イエスの名によって悪霊を追い出すことを止めさせた。ヨハネは、主イエスの名による宣教には力があり、その宣教に携わることを喜び、誇りとしていた。だから、主イエスに従って宣教しない人を許せず、主イエスの名を使うなど咎めたのである。ヨハネの得意げな報告を聞いて、主イエスは、「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである」と言われた。ヨハネは、仲間でない者は主イエスの名を使うなど狭い心で対応をしたが、主イエスは、逆らわない者は味方であるから、止めさせてはならないと、ヨハネの不寛容を諭された。意見が違ふと敵と見なし、向こう側に追いやり、正義感に酔うことがしばしば見られる。心したいことである。

主イエスは死と復活の時が近づいて来たので、エルサレムに向かうことを決意された。そこで、使いの者を遣わし、準備を整えようと、サマリア人の村に入った。ガリラヤからエルサレムに行くにはサマリアを通らなければならないからである。ところが、サマリア人は主イエスが来られることを聞いても、歓迎の態度を示さなかった。ガリラヤでは、主イエスが来られると聞くと、群衆が大挙して集まり、大変な歓迎をした。いつもとは違う様子を見て、ヤコブ、ヨハネ兄弟は主イエスに、「主よ、お望みなら、天から火を下し、彼らを焼き滅ぼすように言いませんか」と言った。二人の兄弟は、主イエスを歓迎しないサマリア人に天からの火を持って焼き殺しましうと、激しく怒っている。彼らは主イエスの弟子であることをいかに誇りに思っているかが分かる。そして、主イエスが天から火を下すほどの力をお持ちだと信じている。主イエスは、二人の兄弟をお叱りになった。

ヨハネの「従って来ないので、やめさせました」という言葉も、ヤコブ、ヨハネ兄弟の「天から火を下し、彼らを焼き滅ぼすように言いませんか」という言葉も、兄弟の激しい性格を現わしている。兄弟はボアネルゲス（雷の子）と名付けられていたが、彼らは気にいらぬことがあると、すぐに怒りを爆発させ、排他的な対応を表わす気性であった。雇い人のいる網元のような漁師の家で育ったので、高慢なところがあつたのではないか。主イエスは彼らの偏狭さと高慢を叱っておられる